

ぼくの家、米そう動

広島市立緑井小学校四年 岩田 広生

ぼくの家で、令和六年に実さいに起きた話を書こうと思います。

まず、ぼくの家は四人家族です。元高校球児で食よくは現役そのままの父と、普通の量を食べる母、小食な弟と、育ちざかりのぼくの四人です。当たり前のことですが、昨年の夏に、毎日のようにニュースでさがれていった「米そう動」は、ぼくの家にもやって来ました。

お母さんのしる言によると、毎月、十五キロ買ってきれいに食べつくしているから、大ピンチだよ。

これまで、十五キロ買っていた金、ぐで五キロしか買えないから、何を節約しよう。おかしかな？アイスかな？

と、毎日のように小言を言うようになり、当時、ようち園見た。た弟は、おかしくなるのはイヤだよ。

と、スーパーのおかし売場でだだをこねてい
ました。また、お父さんは、
「え、なんで三合半しかたかんのん？」
「いっぱいおかわりできんじやん」
と、言っており、うちにも米不足がとう来し
たんだな。と、ぼくは思いました。でも、そ
の時のぼくは、ねだんが高くなっただけだろ
うと思っっていました。

ある日、お母さんは仕事中の父に
「どうしよう品近所のスーパーにどもお米

がない

と、電話をしているのが聞えて、話が大き
くなっているな。と思っっていました。しかし

数日後に、家族でスーパーに行くとお米売場
には、お米はもちろん、げん米、もち米、パ
ックごはんも、品切れしていて、本で読んだ
ことのある「米そう動」みたいなと、ぼく
は危機感をおぼえました。

大好きなカリーライスや、どんぶりもの。
何よりおいしいお父さんが作るチャーハンの

回数がへったけど、それでも毎日夜ごはんには、今までと変わらない量のお米を出してくれています。

両親の話によると、両親が中学生のころにも、米不足があり、その時は日本のお米ではなく海外の見た目も食感も、味もまるでことなる海外のお米を食べたと聞かされました。げんざいもお米のかかくは高いままだけど、日本のおいしいお米を食べてほしい。っっかりお米を食べて、大きく成長してほしい。

しい。

と、お米が大好きな父に言われたので、家でも、学校の給食でも、お米一つぶ一つぶ大切にいただき、米農家さんに感じやしようと思えます。そして、一日も早く米不足がかい消されますように願う、ぼくの家族なのでした。